

下 山 学 区 地域将来ビジョン

令和5年3月

岡崎市下山学区地域づくり協議会

目次

第1章 下山学区の概要.....	1
1-1 基礎情報.....	1
(1) 愛知県岡崎市.....	1
(2) 額田地区.....	1
(3) 下山学区.....	2
1-2 下山学区の人口及び児童数の推移.....	3
(1) 下山学区の人口.....	3
(2) 下山学区の児童数.....	4
1-3 下山学区の地域資源.....	6
(1) 施設等.....	6
(2) 地域団体等.....	9
(3) 地域行事・地域活動等.....	10
第2章 下山学区の地域課題.....	1
2-1 人口減少と高齢化.....	1
(1) 2050年の人口推計.....	1
(2) 下山学区の町別高齢化率（再掲）.....	1
(3) 下山小学校の児童数の推移.....	3
2-2 空き家・遊休農地.....	4
(1) 空き家.....	4
(2) 遊休農地.....	5
2-3 地域住民のニーズ（アンケート調査より）.....	6
(1) アンケート調査の概要.....	6
(2) アンケート結果（抜粋）.....	7
(3) まとめ.....	13
第3章 下山学区の地域将来ビジョン.....	1
3-1 背景と課題.....	1
(1) 概要.....	1
(2) 課題.....	1
(3) 下山学区のSWOT分析.....	2
3-2 基本方針.....	4
3-3 今後の取組.....	5
(1) 遊休資産の有効活用〔農用地保全〕.....	5
(2) 移住支援の仕組み検討〔生活支援〕.....	5

(3) 関係人口創出〔施設運営〕	5
(4) 地域プロモーション〔地域資源活用〕	6
3－4 取組のステップ	7

第1章 下山学区の概要

1-1 基礎情報

(1) 愛知県岡崎市

岡崎市は、愛知県のほぼ中央に位置する中核市。人口は385,823人（2022年4月1日時点）。面積は387.2 km²。市内を矢作川、乙川が流れ、水環境に恵まれている。江戸時代より岡崎城の城下町として整備され、東海道の宿場町として栄えた。徳川家康の生誕の地や八丁味噌の産地として知られる。



[図 1-1-1：愛知県における岡崎市の位置]

(2) 額田地区

額田地区は岡崎市の東部に位置し、2006年に旧額田町の全域が岡崎市と合併した。地区の人口は7,581人（2022年4月1日時点）。面積は160.27 km²で岡崎市の約4割を占める。地区の86%が森林でスギとヒノキの人工林が分布している。かつては林業で栄えていたが、木材価格等の下落に伴い、手入れがされていない森が増えている。

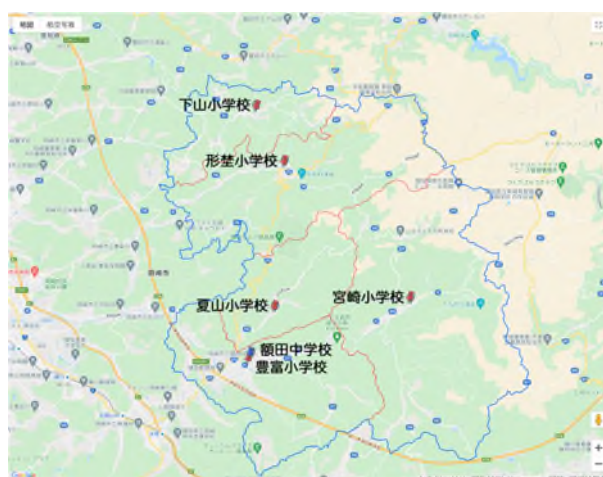
額田地区の特産品としては、お茶、お米、日本酒、ジビエなどがあり、名水を使ったかき氷も人気がある。

地区内には豊富（とよとみ）、夏山（なつやま）、宮崎（みやざき）、形埜（かたの）、下山（しもやま）の5つの小学校（学区）と額田中学校がある。

2021年4月、岡崎市中山間政策課が創設され、現在市内の中山間地において、学区ごとに課題把握と地域プランづくりを推進している。



[図 1-1-2：岡崎市額田地区（緑色）の位置]



[図 1-1-3：各小学校と額田中学校の位置]

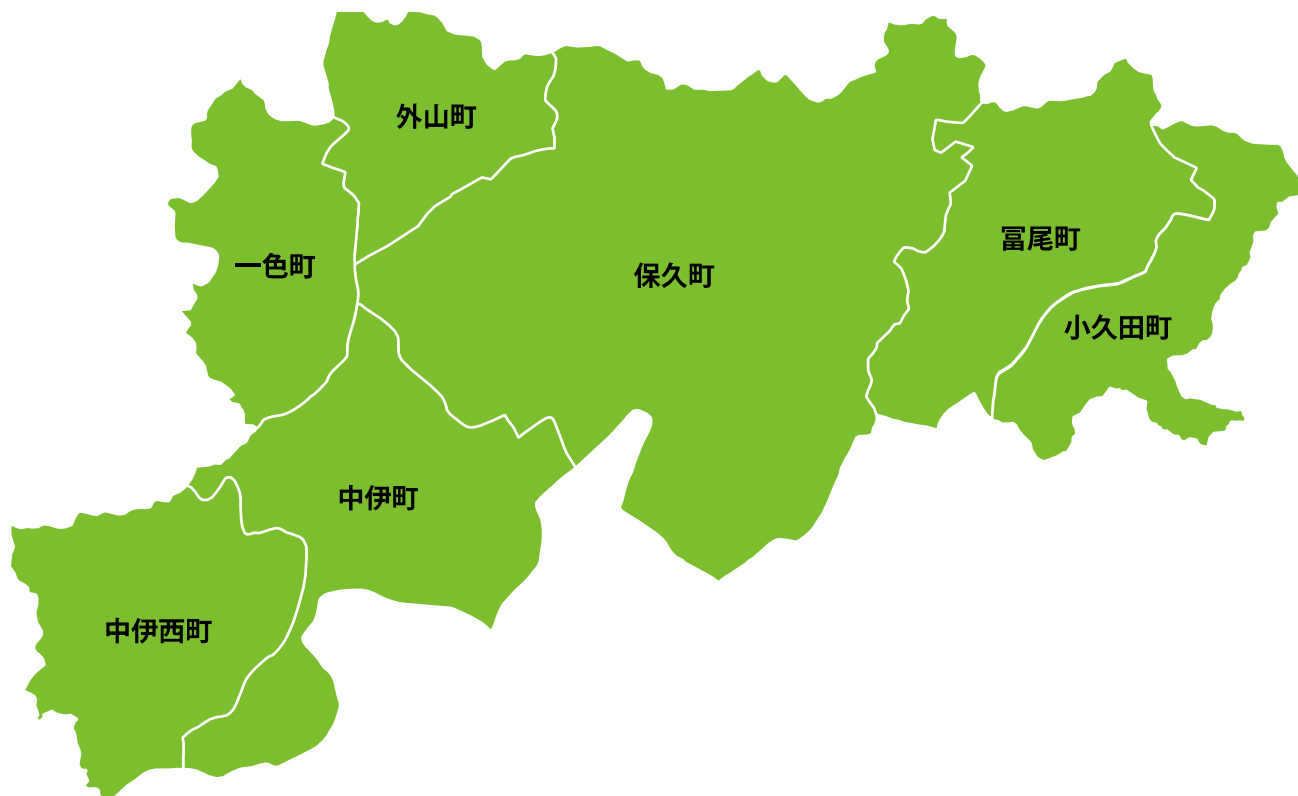
(3) 下山学区

下山学区は、額田地区の最北に位置し、学区の人口は 592 人（2022 年 4 月 1 日時点）で岡崎市 47 学区で最小、面積は 15 km²は旧額田町内の学区で最小。



[図 1-1-4：旧額田町の学区区分]

下山学区は、保久（ほっきゅう）町、富尾（とんびゅう）町、外山（そとやま）町、一色（いっしき）町、中伊（なかい）町、中伊西（なかいにし）町、小久田（おくだ）町（桃ヶ窪）の 7 つの町で構成されている。



[図 1-1-5：下山学区の町区分]

1-2 下山学区の人口及び児童数の推移

(1) 下山学区の人口

①下山学区の人口・世帯数

下山学区の人口と世帯数は、592 人、268 世帯と岡崎市 47 小学校区で共に最も少ない。

	岡崎市全域	額田地区全域	下山学区
人口	385,823	7,581	592
世帯数	165,775	3,078	268

データ元：岡崎市統計ポータルサイト/支所・町別人口・世帯集計表 及び 小学校区別人口・世帯集計表（2022.4.1 時点）

②下山学区の町別人口・世帯数

学区内の人口と世帯数で見ると、保久町が 237 人、103 世帯と最も多く、次いで中伊西町が 97 人、51 世帯、中伊町が 87 人、39 世帯となっている。一方、冨尾町が 27 人と人口では最も少なく、小久田町（桃ヶ窪地区）が 11 世帯と世帯数で最も少ない。

	保久町	冨尾町	外山町	一色町	中伊町	中伊西町	小久田町
人口	237	27	57	55	87	97	32
世帯数	103	14	27	23	39	51	11

データ元：岡崎市統計ポータルサイト/支所・町別人口・世帯集計表 及び 小学校区別人口・世帯集計表（2022.4.1 時点）

③下山学区各町の世代別人口と高齢化率

0-14 歳（年少人口）では保久町が全体の約半分を占める。15-65 歳（生産年齢人口）では冨尾町が 4 人と極端に少ない。65 歳以上（高齢者）では保久町が全体の約 3 分の 1 を占める。

下山学区全体の高齢化率は 46.1%で、岡崎市全体の高齢化率 24.0%(2022.4.1 時点)に比べると 22.1% も高い。下山学区で最も低い小久田町でも 37.5%と岡崎市全体と比べると 13.5%高い。

	0-14 歳 (年少人口)	15 歳-65 歳 (生産年齢人口)	65 歳以上 (高齢者)	小計	高齢化率
保久町	19	125	93	237	39.2%
冨尾町	2	4	21	27	77.8%
外山町	2	20	35	57	61.4%
一色町	2	21	32	55	58.2%
中伊町	3	43	41	87	47.1%
中伊西町	6	52	39	97	40.2%
小久田町 (桃ヶ窪のみ)	1	19	12	32	37.5%
小計	35	284	273	592	46.1%

データ元：岡崎市統計ポータルサイト/支所・町別人口・世帯集計表 及び 小学校区別人口・世帯集計表（2022.4.1 時点）

（２）下山学区の児童数

①下山小学校の児童数

下山小学校の児童数は 22 人（2020 年時点）。1・2 年、3・4 年、5・6 年のいずれも複式学級となっている。2023 年 4 月年度より小規模特認校に指定される。

年度	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	特別支援学級	計
2020 年度	3	3	3	4	6	2	1	22
学級	1（複式）		1（複式）		1（複式）		1	4

データ元：学校教育情報サイト Gaccom 及び 下山小学校ウェブサイト

※複式学級について愛知県は独自の基準があり、1・2 年生は合わせて 7 人以下、3・4 年生及び、5・6 年生合わせて 14 人だと複式学級になる。

※小規模特認校とは、従来の通学区域は残したままで指定を受けた学校について、通学区域に関係なく当該市町村内のどこからでも就学を認める制度

②額田地区小学区児童数（2020 年度）

額田地区では豊富小学校が 217 人と最も児童数が多い。次いで形埜小学校の児童数が 53 人だが、額田地区全体の平均（66.6 人）を下回っている。夏山小学校、宮崎小学校も下山小学校と同様に複式学級となっている。この 3 校は合同で集合学習を行っている。

小学校名	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	特別支援学級	全体
豊富小学校	30	41	33	39	35	36	3	217
夏山小学校	6	3	0	5	4	1	0	19
宮崎小学校	2	1	4	1	6	8	0	22
形埜小学校	6	7	7	10	12	6	5	53
下山小学校	3	3	3	4	6	2	1	22
計	47	55	47	59	63	53	9	333
平均	9.4	11	9.4	11.8	12.6	10.6	1.8	66.6

データ元：学校教育情報サイト Gaccom

③額田中学校の児童数の推移

額田中学校の児童数は 2009 年度から 2020 年度にかけて、70 人ほど減っている。2023 年度に寮が廃止される予定。

年度	1 年生	2 年生	3 年生	特別支援学級	全体
2020 年度	58	63	72	3	196
2019 年度	63	73	59	3	198
2018 年度	72	59	78	3	212
2017 年度	59	77	62	4	202
2016 年度	78	62	73	5	218
2015 年度	61	72	73	4	210
2014 年度	72	72	60	5	209
2013 年度	73	60	85	2	220
2012 年度	60	85	83	4	232
2011 年度	84	82	78	4	248
2010 年度	81	78	89	5	253
2009 年度	78	88	100	3	269

1 - 3 下山学区の地域資源

(1) 施設等

①主要施設



[図 1-3-1：下山の地図] ※出典：岡崎まちものがたり



下山小学校

保久町にある公立小学校。2022 年で創立 150 周年を迎える。



りんぱ館

旧下山村の保健医療施設を復元した地域活動の拠点。



柴田酒造場

江戸時代より蔵を構える。神水を仕込み水に代表銘柄「孝の司」を醸している。2021 年にカフェがオープン



トヨタテクニカルセンター下山

岡崎・豊田両市域にまたがるトヨタ自動車（株）の研究開発施設。2023 年度に本格稼働する予定。



下山学区市民ホーム



テツマ EM タマゴ

EM 菌を入れた天然飼料を食べる鶏のたまごを生産。

②商業施設・病院



A コープ (2019 年 3 月に閉店)
学区内に日用品が買える店舗はない。



移動スーパー「ほたる号」
JA あいち三河が運営する移動スーパー、定期的に訪問。



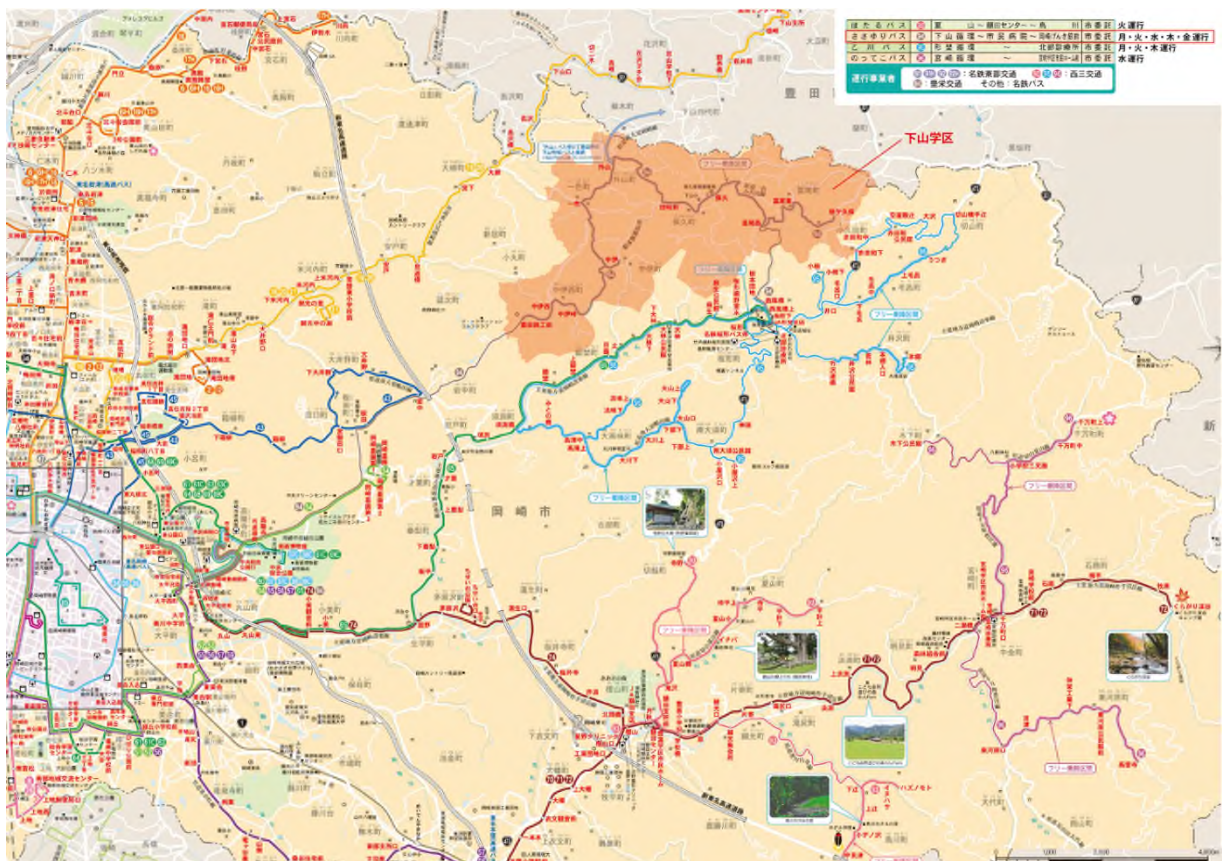
額田北部診療所
学区内に病院はなく、最寄りの病院は隣の形埜学区形町にある。



蔵Cafe 一合 (2021 年 8 月開店)
酒蔵を改装したカフェ。地域外から多くの人が訪れる。

③公共交通 (ささゆりバス)

地域の尽力により、週 5 日コミュニティバス (ささゆりバス) が運行 (他の中山間地では週 1, 2 日程度) しているが、部活や補講等には対応しておらず、保護者の負担が少なくない。



④自然・観光資源



下山小学校のヤマザクラ
愛知県指定文化財。樹齢 300 年と伝えられている、



保久川沿いの桜並木
約 500m にわたって、約 30 年前に地元有志が植栽した桜。



中伊のビュースポット
中伊町入坂地内の東方遠望。本宮山や四季折々の眺望を楽しめる。



弁慶の手刀岩
弁慶が割った民話で伝わる大岩。



古道
昔の間道。「小さなやまがのウォーキング」のコースにもなる。



七ツ蔵窯（炭焼きの森）
「森のスポット」。現在はトヨタテクニカルセンター下山敷地内に拠点を移している。

⑤名所・史跡・歴史資源



庚申塔（こうしんとう）
三猿を彫った石碑と椎の木が目印。保久-冨尾間の旧道の峠にある。



保久陣屋跡
1651 年（慶安 4）から幕末に三河 32 か村を所領した石川氏の陣屋跡。



保久八幡宮
1896 年（明治 29 年）の建築。回り舞台や太夫座のある農村舞台、指定文化財。



山下家墓所（市指定文化財）
室町時代の保久領主・山下家の墓。墓石に関東型と三河型がある。

（２）地域団体等

①学区総代会

各町の総代 10 名で構成（会長任期 1 年、持ち回り）。自治組織…町内会・地縁団体…の代表機関。

②社会教育委員会

学区内の各種団体（総代会、小学校、保育園、老人クラブ、小中学校 PTA、消防団、生産組合、スポーツ・リクレーションクラブ、地区づくり部会、保育園父母の会、福祉委員会、畚の会など）で組織。学区のコミュニティ活動や各種の行事を主催する。会費（住民の拠出）を予算化し、年間の運営経費とする。委員長は総代会の推薦による。

▶ 地区づくり部会

社会教育委員会傘下の活動部会。住みよい地域づくりを目標に、自然体験・農業体験・環境整備などの活動をしてきた。現在は秋のイベント「小さなやまがのウォーキング」を企画実施。

▶ 畚（もっこ）の会

町おこしの個人参加・任意グループ。春祭りイベント「山桜を愛でる会」や各イベントの推進・実行グループ。

▶ 老人クラブ（晩会）

芸能発表会、山下家墓所の清掃活動などの活動や、下山小学校の田植えの協力なども行う。

③大規模開発対策委員会

研究開発事業用地の造成工事に関して、地域の代表組織として県企業庁・トヨタ自動車・岡崎市との連絡調整にあたる。委員は各町総代をはじめ関係者 20 余名で構成、任期 3 年…造成工事の完了により 2021 年 3 月に解散、「下山学区対策委員会」に引き継がれる。

▶ 下山学区対策委員会

「トヨタテクニカルセンター下山（以下 TTC 下山）」の本格稼働・操業に際して、地域への波及効果を活かしたまちづくりに寄与することを目的に 2021 年 4 月に発足。委員は総代会代表をはじめ、関係者 10 余名で構成。トヨタ自動車、岡崎市と協定を締結する。

▶ しもやま里山協議会

地域と企業との連携の中で、長年にわたり地域が培ってきた知恵を活かしながら、「TTC 下山」及びその周辺において、人と生態系の双方にとってよりよい里山環境を守り育て、里山の恵みを利活用するとともに、その成果を広く情報発信することを目的として、豊田・岡崎双方の関係者により 2009 年 11 月に設立。

④ささゆりバス委員会

コミュニティバスの地元協力組織。市役所、事業者と連携協力して地域の公共交通事業の運営にあたる。委員（15 名）は市民公募と役職者の充職。

(3) 地域行事・地域活動等

①地域行事

コロナの影響により、2021, 2022 年度は主な行事は中止となった。

4 月	山桜を愛でる会（下山春まつり） 4 月中旬の日曜日。下山春まつり実行委員会主催。下山小学校庭の 300 年の山桜（県指定 文化財）を中心にした観桜会。特設ステージでの演物、各種出店バザー、野点席、弓道射会など。20 回以上開催し、毎年 600 人以上の人出がある。	
8 月	盆踊り大会（下山夏まつり） 8 月 14 日開催。スポーツ・リ克雷ションクラブ主催。学区内企業・事業所からの協賛金で運営。	
10 月	文化展 10 月下旬の土曜日。小学校の学芸会に合わせ、生徒の作品展と共催。写真、絵画、生花、俳句などを展示する。	
11 月	小さなやまがのウォーキング（下山秋まつり） 11 月下旬の日曜日。社教委員会（地区づくり部会）が主催。学区内にウォーキングコースを設定し、秋深い山里を巡る野外イベント。20 回近く開催しているが、近隣のウォーキング愛好者・300 名超（うち地域外が 250 人）が参加する。各種の出店バザーも好評。学区内企業の社員がボランティア・スタッフとして参加。	
2 月	芸能発表会 老人クラブ（晩会）が主催して、2 月初旬に開催。日本舞踊、カラオケ、器楽演奏、パントマイムなど。	
通年	クアオルト®健康ウォーキング 指導者と一緒になって里山や森林を歩きながら健康チェックを行うウォーキング事業（気候型地形療法）。2021 年 3 月「下山いやしの里山コース」が岡崎市「クアの道」に認定された。緊急事態宣言に伴い、2021 年 6 月～9 月の実施は中止となったが、10 月より再開予定。岡崎市保健所が主催し、太陽生命が後援。	
年 3 回	岡さんぽ 岡崎市観光 100 選を回るツアー。岡崎市観光協会の主催で、老舗蔵元「孝の司」を起点 にボランティアガイドと一緒に保久陣屋・山下家墓所・万福寺・長興寺・八幡宮などを歩く。年 3 回ほど実施。	

その他、「恵田学区との交流会（収穫祭、餅つき大会）」「常磐東学区との交流会（灯籠流し、打ち上げ花火鑑賞）」「ぬかたふるさとまつりへ参加（踊りの会演舞披露、畚の会バザー出店）」「JA まつりへ参加（畚の会バザー出店、踊りの会舞踊披露）」なども行っている。

②その他地域活動

月 1 回	山下家墓所の清掃活動 鎌倉時代の豪族山下氏と旧保久領主・石川家の墓所（岡崎市文化財）の清掃管理事業。老人クラブ（暁会）が委託事業として月 1 回実施。	
月 1 回	地域公共交通の利用促進活動 コミュニティバス「ささゆりバスに乗って出かけよう」事業。東公園、本多邸、天満天神、岡崎公園、中央総合公園などへの「岡崎街歩き」と同好者の「ボウリング大会」を月 1 回づつ実施。老人クラブ（暁会）の主催。	

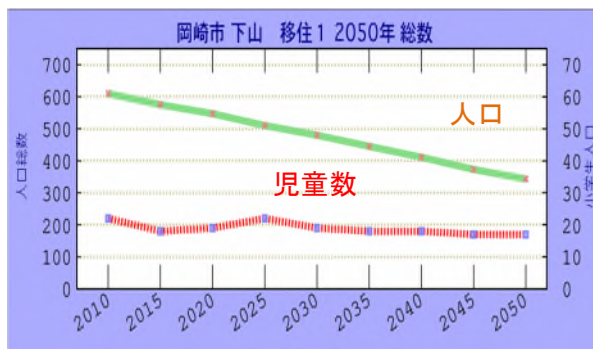
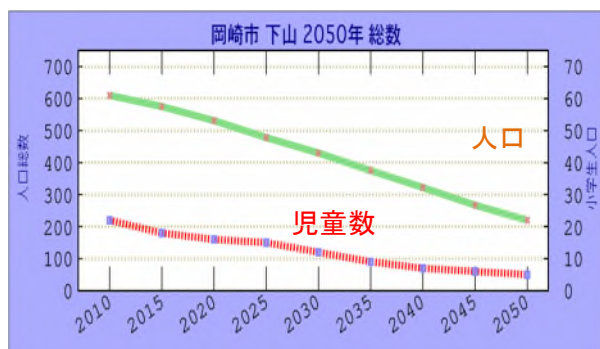
第2章 下山学区の地域課題

2-1 人口減少と高齢化

(1) 2050年の人口推計

名古屋大学の簡易人口推計ツールを用いた人口推計では、現状の人口増減率で推移した場合、2050年には人口が55%減少し、児童数は10人を大きく割り込む（左図）。

仮に1年に1世帯子育て世帯が移住した場合を推計すると、人口は40%強減少するものの、児童数は20人弱を維持することが可能となる。



[図 2-1-1：何もしなかった場合]

[図 2-1-2：1世帯/年の子育て世代が移住してきた場合]

（名古屋大学大学院附属持続的共発展教育研究センター提供小地域ごとの簡易人口推計ツールを使用）

(2) 下山学区の町別高齢化率（再掲）

前述の通り、下山学区全体の高齢化率 46.1%は、市全体の高齢化率 24.0%と比して極めて高い。

	0-14 歳 (年少人口)	15 歳-65 歳 (生産年齢人口)	65 歳以上 (高齢者)	小計	高齢化率
保久町	19	125	93	237	39.2%
富尾町	2	4	21	27	77.8%
外山町	2	20	35	57	61.4%
一色町	2	21	32	55	58.2%
中伊町	3	43	41	87	47.1%
中伊西町	6	52	39	97	40.2%
小久田町 (桃ヶ窪のみ)	1	19	12	32	37.5%
小計	35	284	273	592	46.1%

データ元：岡崎市統計ポータルサイト/支所・町別人口・世帯集計表 及び 小学校区別人口・世帯集計表（2022.4.1 時点）

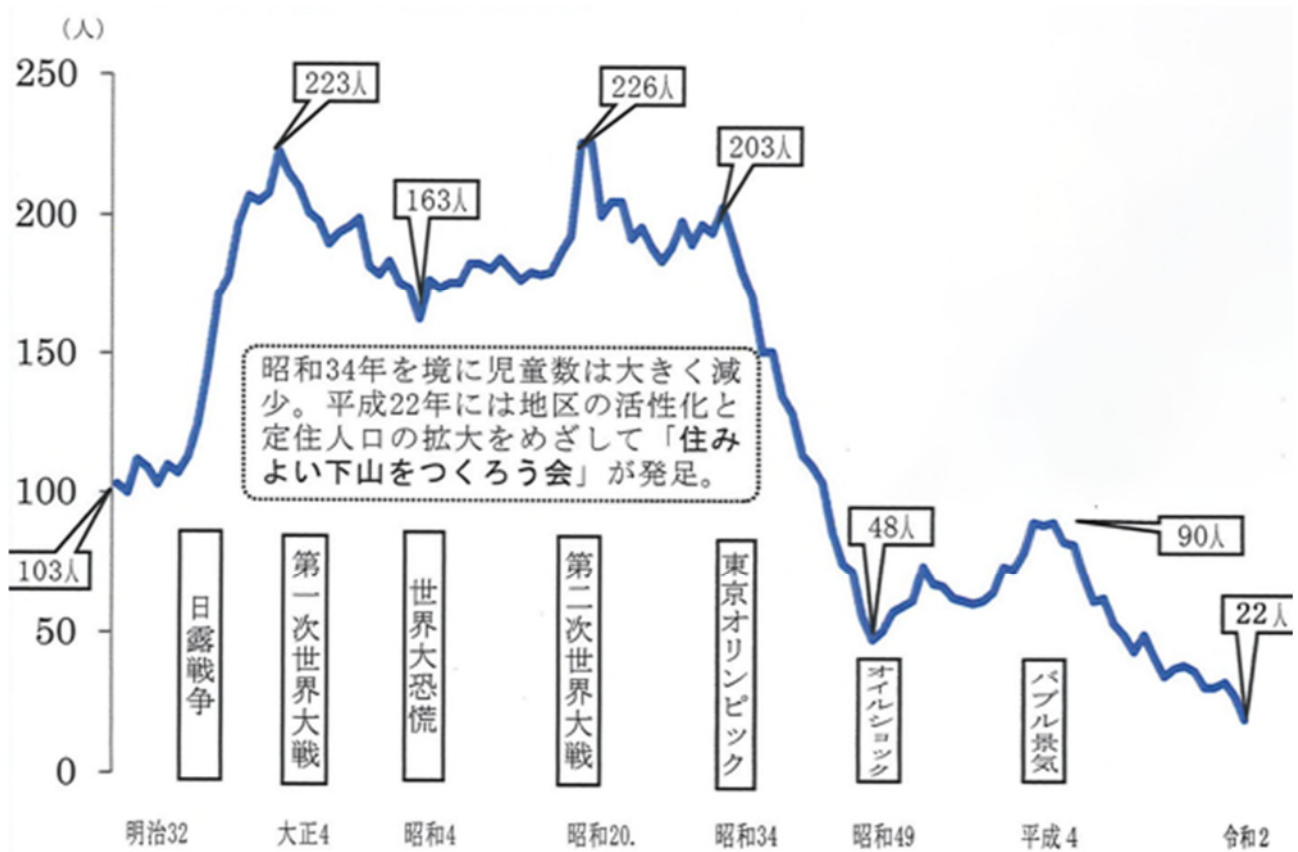
町別高齢化率を見ると、岡崎市全 354 町の上位 10 町中 3 町が下山学区（冨尾、外山、一色）であり、いずれも下山学区内で人口が少ない町であり、深刻な高齢化が進んでいる。

岡崎市全 354 町上位 55 町内に、下山学区全 7 町が含まれる（冨尾 2 位、外山 6 位、一色 8 位、小久田 29 位、中伊 30 位、中伊西 54 位、保久 55 位）。

順位		行政町名/区分	65 歳以上人口	人口	高齢化率
1	本庁管内	島町	2	2	100.0%
2	額田支所管内	冨尾町	21	27	77.8%
3	岩津支所管内	渡通津町	10	13	76.9%
4	額田支所管内	千万町町	46	77	59.7%
5	岩津支所管内	川向町	25	42	59.5%
6	額田支所管内	外山町	35	59	59.3%
7	額田支所管内	東河原町	59	106	55.7%
8	額田支所管内	一色町	31	57	54.4%
9	本庁管内	六名町	7	13	53.8%
10	本庁管内	六地藏町	61	114	53.5%
...					
29	額田支所管内	小久田町	46	101	45.5%
30	額田支所管内	中伊町	42	93	45.2%
...					
54	額田支所管内	中伊西町	40	107	37.4%
55	額田支所管内	保久町	89	241	36.9%

(3) 下山小学校の児童数の推移

2020年（令和2年）の下山小学校の児童数は22名で、最も多かった1945年（昭和20年）（226人）と比べると10分の1まで減っている。東京オリンピック後、1959年（昭和34年）を境に児童数が大幅に減少し、バブル期に一度増加するものの、再度下降線をたどっている。

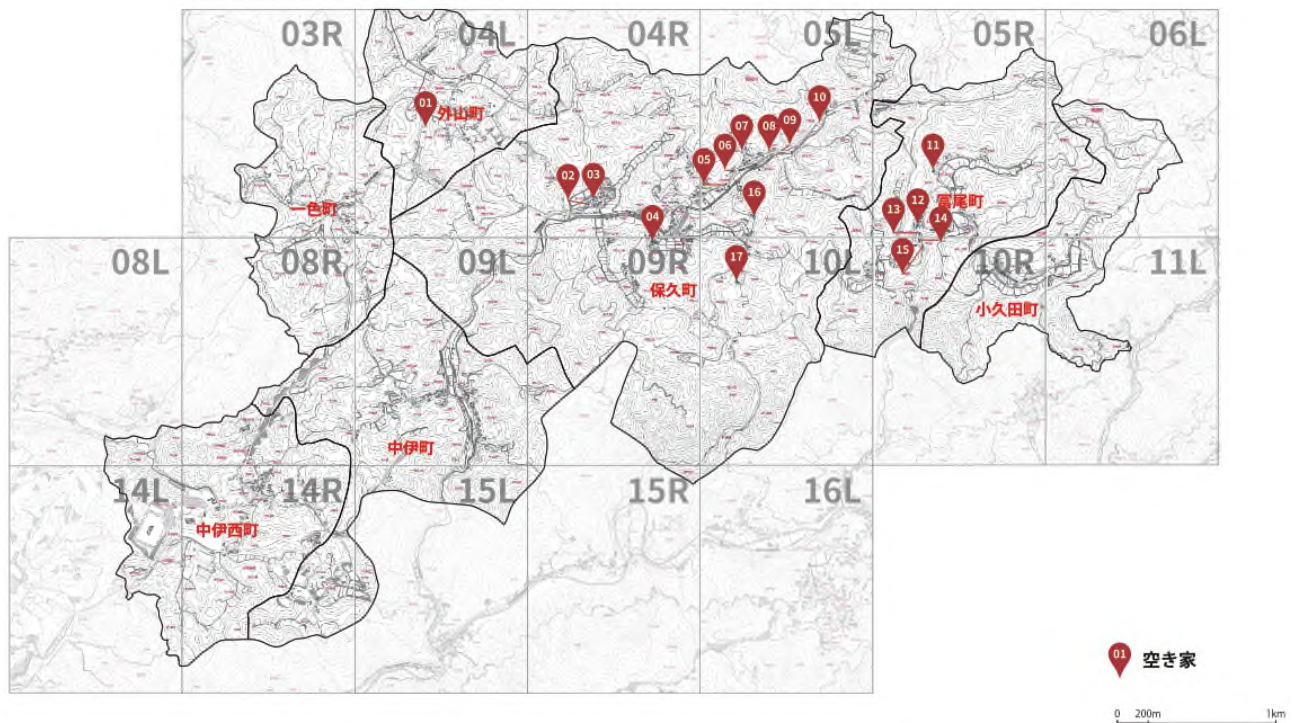


[図 1-2-3：児童数の変遷]

2-2 空き家・遊休農地

(1) 空き家

以下は、地域住民へのヒアリングを元に空き家情報を取りまとめたものである（下山学区の全ての空き家の情報を網羅しているわけではない）。把握されただけで17軒の空き家が存在している。



ヒアリングと目視による建物や庭などの管理状況、利活用の可能性を表にまとめた。

no	住所（町）	物件の状態	利活用の可能性
01	外山町	★★★	★★★★☆
02	保久町	★★☆	★★★★☆☆
03	保久町	★★☆	★★★★☆☆
04	保久町	★★★	★★★★☆
05	保久町	★☆☆	★★☆☆☆☆
06	保久町	★★★	★★★★☆
07	保久町	★☆☆	★☆☆☆☆
08	保久町	★★☆	★★★★☆☆
09	保久町	★★☆	★★★★☆☆
10	保久町	★★★	★★★★★
11	富尾町	★☆☆	★☆☆☆☆
12/13	富尾町	★★☆	★★★★☆☆
14/15	富尾町	★☆☆	★★☆☆☆☆
16	保久町	★★★	★★★★☆
17	保久町	★★★	★★★★☆

〔物件の状態〕

- ★☆☆：物件の状態が悪い
- ★★☆：物件の状態は悪くないが、住むには修繕が必要
- ★★★：物件の状態も良く、庭などの管理状況も良い

〔利活用の可能性〕

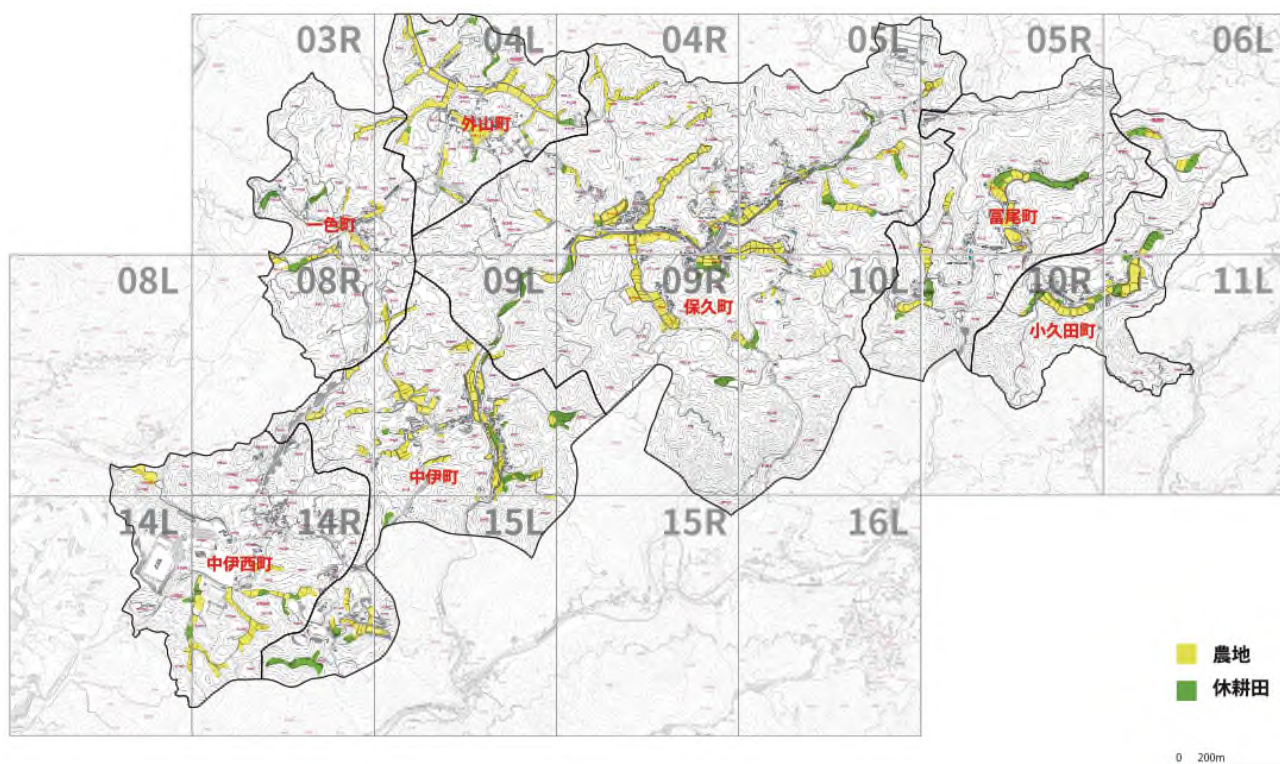
- ★☆☆☆☆：管理状況が悪く、所有者不明
- ★★☆☆☆：管理状況が悪く、修繕しても活用が難しい
- ★★★☆☆：管理状況は良いが、修繕にお金がかかる（水周りが無いなど）
- ★★★★☆：管理状況は良いが、所有者が活用に難色
- ★★★★★：管理状況が良く、所有者も利活用に前向き

今後、上表で「物件の状態」が良く（物件の状態＝★★★★）、「利活用の可能性」が比較的高い（利活用の可能性＝★★★★以上）物件の利活用を優先的に検討していくことが望まれる。

他にも学区内に空き家は存在しているが、一般的に「家財が残っている」「年に数回利用する」「仏壇がある」などの理由により、空き家を貸したり売却したりすることに消極的な所有者が多いため、空き家活用の実例をもとに空き家活用に向けた啓発を行っていく必要がある。

（２）遊休農地

以下は、目視による現地調査により把握した遊休農地を地図上に示したものである。



上図で遊休農地（見なし含む）は 71 箇所であり、状態は

- ①使われていないが草刈りなど手入れはされている（6 箇所）
- ②雑草が生えるなど手入れがされていない（49 箇所）
- ③竹林や雑木が生えるなど農地として使うのは困難（15 箇所）
- ④太陽光パネルなど別用途で使われている（1 箇所）

の 4 つに大別される。

上記①②の中から、所有者の意向、景観的インパクト（手入れされていないことが悪目立ちするような立地）、アクセス性などの要素を踏まえ、農業体験や貸し農園、観光農園などの活用可能性を探っていく。

2-3 地域住民のニーズ（アンケート調査より）

（1）アンケート調査の概要

2021年8月、下山学区総代会、下山学区社会教育委員会、下山学区対策委員会主催で下山学区の全住民（小学生以上）を対象としたアンケートを実施した。

①調査の趣旨

2年後の額田中学の寮廃止に伴う通学方法及び中学校区の検討、高校生を抱える保護者の送迎負担の軽減、ささゆりバスの有効活用や新たな交通手段の検討に向けて、住民の意向を把握し、これからの下山学区の未来像（ビジョン）及び将来プランづくりにつなげる。

②実施時期

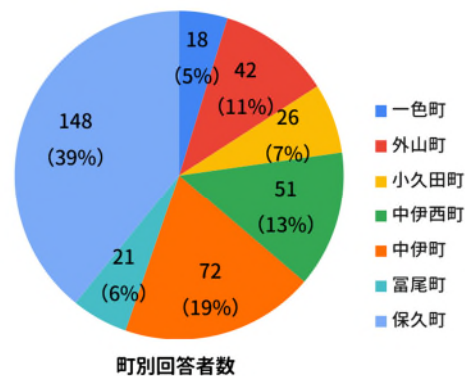
2021年8月

③回答数及び回答率

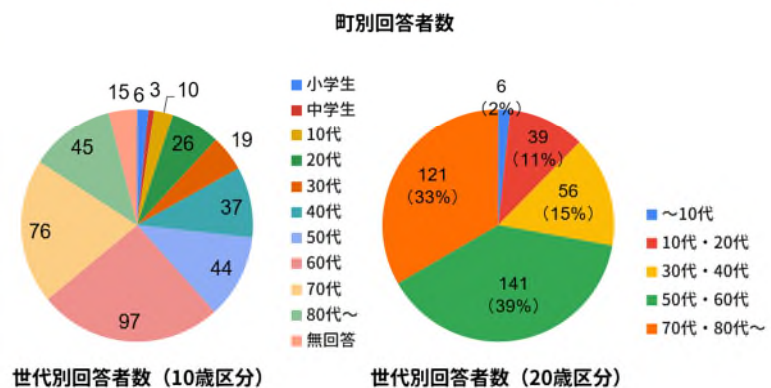
378/453 通（83.4%）

■ 回答者の基本属性【回収率(町別・世代別)】

	回収数	配布数	回収率
全体	378	453	83.44%



	回収数		回収数	
小学生	6	～10代	6	1.7%
中学生	3	10代・20代	39	10.7%
10代	10			
20代	26	30代・40代	56	15.4%
30代	19			
40代	37	50代・60代	141	38.8%
50代	44			
60代	97	70代・80代～	121	33.3%
70代	76			
80代	45			



④質問項目

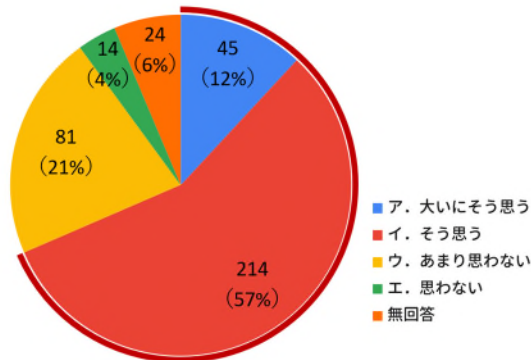
- ・地域の満足度
- ・不便な点・改善してほしい点
- ・地域にあったらいいもの
- ・小中学校の適正規模及び特認校指定の是非
- ・ささゆりバスの利用実態
- ・新たな交通手段の希望
- ・地域の将来像及び協力できること など

(2) アンケート結果 (抜粋)

①この下山が好きで満足している

質問1-①:この下山が好きで満足している 【全体】

	回答数	割合
ア. 大いにそう思う	45	11.9%
イ. そう思う	214	56.6%
ウ. あまり思わない	81	21.4%
エ. 思わない	14	3.7%
無回答	24	6.3%



☞68.5%(7割弱)が、「好きで満足している」と回答

「大いにそう思う」が45人(11.9%)、「そう思う」が214人(56.6%)と、全体で7割弱の方が下山のことを好きで満足しているという結果が得られた。

質問1-①:この下山が好きで満足している 【自由記述】 ※一部抜粋

好きな理由

■ 大いにそう思う (36)

【自然豊かで環境が良いから (19)】

季節ごとの自然の移り変わりや、朝夕に聞こえる鳥や虫の声などが素晴らしいと感じているため。また、**自然豊かで環境がよいから**。山や田舎の風景が好きなため。(50代・女性) / 市街地より四季を感じ、安心感を感じる。(40代・女性) / 自然が豊かでみんなが優しいから。(10代・女性)

【下山で生まれ育ったから (7)】

生まれた所だし、みんな優しいから。(10代・男性) / 先祖から住んできた土地だから。(70代・男性)

【地域の人たちと良い関係だから (7)】

まわりの人がやさしいから (小学生・男性) / 行事を大切にしている。みんなで協力して生活している。(30代・女性)

■ そう思う (134)

【自然豊かで環境が良いから (52)】

環境が良い。緑が多く落ち着く。(50代・男性) / 空気がおいしい。(70代・男性) / 自然が豊かで夕のびと子育てができるから。(40代・女性) / 住んで落ち着く環境、自然がある。(70代・女性) / **自然豊かで環境がよいから**。(40代・女性) / 街は騒音が大きすぎるから。(20代・男性) / 自然豊か。周りの人が親切。(10代・男性) / 自然豊かで、子供ののびのび育てられるから。(30代・女性)

【下山で生まれ育ったから (24)】

ここで生まれ育った。(70代・女性) / 産まれ育った所だから。(60代・男性) / 地元だから。(70代・男性)

【気候が良い、居心地がよい (5)】

居心地が良い。(10代・男性) / 夏の夜は涼しく、クーラーがいらぬ。小学校などのコミュニティは穏やかで楽しい。(30代・女性)

好きでない理由

■ あまり思わない (57)

【交通手段がないから (18)】

交通が不便。(40代・男性) / 車なしでは生活できない。(60代・女性) / 買い物、カンパンスタンド。高くてもバスが通らない。(50代・女性) / 不便。(車が移動手段になる)。(70代・女性) / 有線バスが通っていないから。(無回答・男性) / 学校が遠い。(中・高)。(80代・男性)

交通手段がないから

【いろいろと不便だから (16)】

何かと不便なため。(50代・女性) / 入居しても親切だが不便な点があるため。(60代・女性) / 無駄に思う段が手。**不便だから**。(住みやすいが色々なことが不便)。(50代・女性) / 職場や遊びに行くときに距離があり不便。(30代・男性)

【若い人がいないから (3)】

若い人がいない。(40代・女性) / 若い人がいなくなってしまうから。(70代・女性) / 若い人が皆外に出て行ってしまふ。(60代・女性)

■ 思わない (11)

【不便だから (7)】

何かと不便だから。電波が悪い。(20代・女性) / 交通の便が悪い。(無回答・男性) / 不便。(50代・男性) / 不便。**不便だから**。(80代・女性) / 不便だから。(10代・女性) / 生活するのに不自由。(80代・男性)

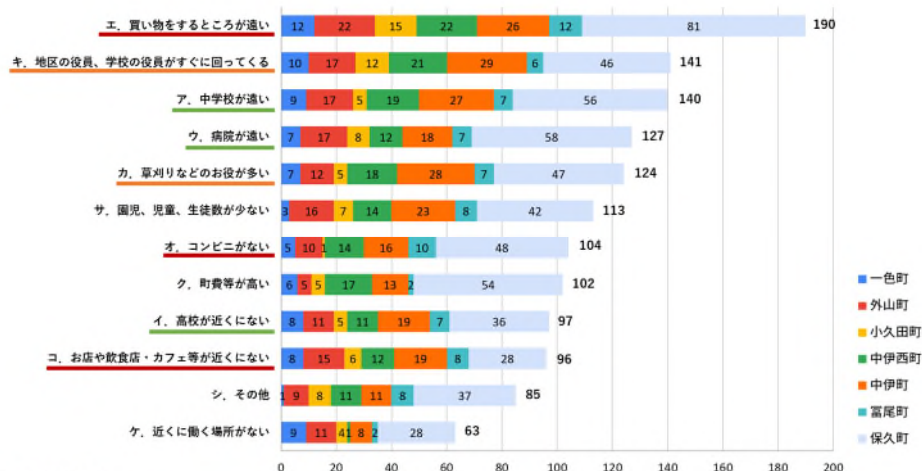
【その他 (4)】

何もない (小学生・女性) / 過疎化が酷すぎる。(30代・男性) / 住んでいる人の性格が悪い。(無回答・女性) / 役が多すぎる。(80代・女性)

好きな理由としては「自然豊かで環境が良いから」という意見が多く、好きでない理由としては「交通手段がないから」「不便だから」等の理由が多くを占めた。

②下山が不便に思ったり、嫌な（改善してほしい）点はありますか

質問1ー②：下山が不便に思ったり、嫌な（改善してほしい）点はありますか【全体】



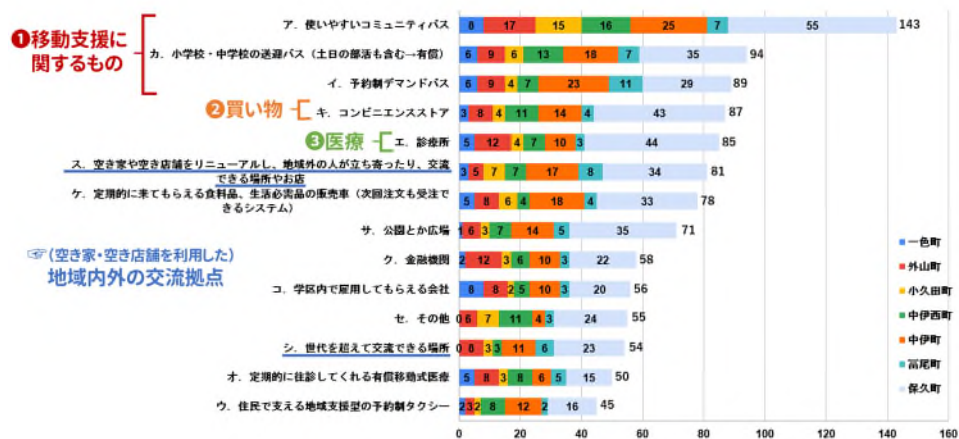
□不便な点

- ①買い物や飲食できるお店がない
- ②お役が多い
- ③教育施設・医療機関が遠い

「買い物をすると遠い(190)」が一番多く、「地区の役員、学校の役員がすぐ回ってくる(141)」
「中学校が遠い(140)」という意見が次いで多かった。それ以外の回答も含め整理すると、①買い物や飲食できるお店がない、②地域のお役が多い、③教育施設・医療機関等が遠い等といった、下山の代表的な地域課題が見出された。

③この地域にあったらいいと思うもの（複数回答可）

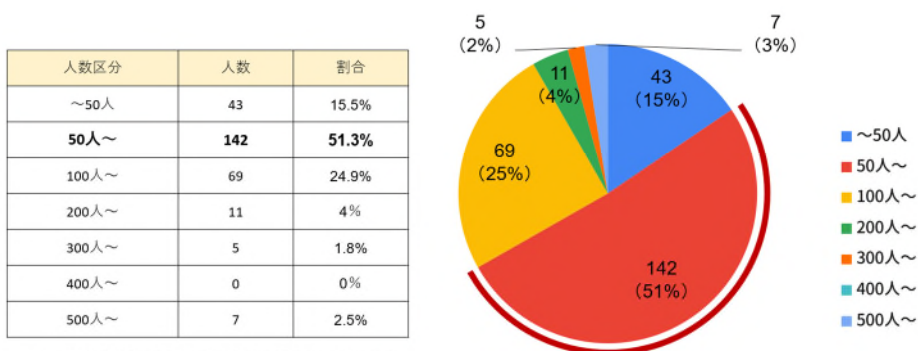
質問1ー③：この地域にあったらいいと思うもの（複数回答可）【全体】



「使いやすいコミュニティバス(143)」
「小学校・中学校の送迎バス(94)」
「予約制デマンドバス(89)」
と上位の3つが全て移動支援に関するものという結果となり、交通の問題に対する課題意識が強いことがわかった。

④小学校の適正な児童数は全校で何名ぐらいだと思いますか

質問1-④：小学校の適正な児童数は全校で何名ぐらいだと思いますか【全体】



※下山小学校児童数(2020年度時点):22人

「50人」と答えた方が約半数

「50人～」と回答した方が一番多く(142:51%)、次いで「100人～」と回答した方が多かった(69:24.9%)。

質問1-④：小学校の適正な児童数は全校で何名ぐらいだと思いますか【理由】(183) ※一部抜粋

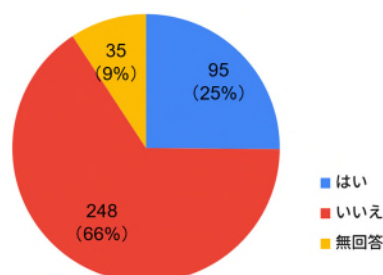
	団体競技や行事等 が実施できる人数 (28)	複式学級を解消し たい(20)	集団行動から多様 性や社会性を身に つけて欲しい(16)	競い合う力を養っ て欲しい(11)	多すぎず、少な すぎない適正な人数 を(9)	友達が増える (8)	先生の目が行き届 く人数(6)	子どもが多いと活 気がある(5)	その他 (80)
～50人 (24)	(3) 共同作業のできる 最低数かと思うから (60代・女性)	(4) 複式学級を行わない 人数が望ましい (20代・男性) / 学年に合った学習 をしてほしい (30代・女性)	(1) 人数が多いとコ ミュニケーション がとれるから(小 学生・女性)	(2) 競い合う力をつけ る(70代・女性) /子供同士で就走 心がでる(70代・ 女性)	(2) 少ななくても淋し いし、あまりにも人 が増えても今の良 い所が欠けてしま う気がするから (40代・女性)	(2) みんな仲良くあそ べるくらいの人数 だから(10代・男 性) /様々な人間 関係を築ける(30 代・女性)	(0)	(2) 学校内が明るく、 もっとにぎやか になるため。(20 代・男性)	(8)
50人～ (87)	(14) 団体競技不可 (70代・女性) / 子供の体力や運 動会などみんな 平等にできる 人数。今は参加 させてくれない とか多めの学校 みたいになりそ う。差のある期 間は、平等に やらせない。 (40代・女性)	(8) 複式学級がない方が良 い。(70代・女性) /複式がなくなり クラス活動 (60代・男性)	(8) 少ないと学年間 関係なく、年 齢がかわらな いから(10代・ 女性) /各 学年1人1人 がいて、先生 の目が届くこ とが社会性や コミュニケーション がとれるため。 (30代・女性)	(5) 少しくらい、競い 合うため(60代・ 女性) /お互いに 競争して良くな ると思う(80代・ 女性) /ゆとりも 取れつつ、ある程 度の競争もして欲 しい(40代・女 性) /競い合う相 手が多い方がいい (40代・男性)	(4) 多すぎず少な すぎない人数が良 いと思う。(30代・ 男性) /1学年10 ～15名 多からず少 なからず(50代・ 男性)	(3) 同級生が少ない (無回答・男性) /全校が知り合 いになれるから (10代・男性)	(4) 先生の目が行き届 くから(60代・男 性) /1人1人を見 てもらうのでは？ (60代・女性) /生徒 一人一人、先生が しっかり面倒を見 れる人数と思う (50代・女性)	(2) にぎやかになる (20代・男性) / 子供が多いと活 気がある(80代・ 女性)	(39)
100人～ (54)	(9) クラブ活動がで きるため(10代・ 女性) /行事など の人数が円滑に 行えるため(70 代・男性) / 行事などこのくら いの人数がいたら より盛り上がる と思うため。(50 代・女性)	(7) 学年が単独で できる数(50代・ 女性) /複式が難 から(70代・男 性) /複式クラス にならなくていい 人数(40代・女 性)	(4) 色々な年齢の 子には、1人1 人10人ぐらい必 要(70代・男性)	(4) 各学年20名、学習 も体育、ゲーム も切磋琢磨する には、この位の 人数は必要(70 代・女性)	(1) 多くもなく少な くないから(60代・ 男性)	(3) 友達が増えるから (10代・女性) / これ以上少ないと 人脈がなくなっ てしまう(10代・ 男性)	(2) 1年～6年まで、 1クラス20名位が、 先生も目の行き届 いた教育ができ ると思う。(70代・ 男性) /子供一人 一人に先生の目 がとどく(60代・ 男性)	(1) 活気がある(70 代・女性)	(23)

子ども達の人数が増えること以上に、現状の複式学級を解消したいという意向があることがわかった。

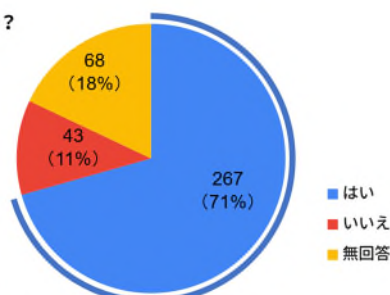
⑤もし下山小学校が特認校に指定されたら良いと思いますか

質問1ー⑤⑥：小学校の適正な児童数は全校で何名くらいだと思いますか【全体】

5. 特認校制度の言葉を聞いたことがある。



6. もし下山小学校が特認校に指定されたら良いと思いますか？



7割強の方が特認校*の指定に肯定的 *特認校=学区外から通学する児童を受け入れることが可能になる

7割（267）の方々が「はい」と回答し特認校指定に肯定的なことが分かった。

※ 特認校＝学区外から通学する児童を受け入れることが可能になる

⑥今後の将来的な中学校区のご意見をお聞きます

質問2ー①：中学生の通学に関して要望や不安に思うことがあればご記入ください【自由記述】(138) ※一部抜粋

【送迎バス（スクールバス）が必要（53）】

送迎バスの運用（60代・男性）／中学校が遠いので通学となると、その足をよく考えなくてはならないと断は大変だと思う。（50代・男性）／スクールバス利用（70代・女性）／送迎するとなると、まず無理なので通学のバス。車が必要であると思います。（60代・女性）／バスの無償化、部活時の送迎バス、基本親が送迎しなくても良いようにしていただきたい。（30代・女性）／元々必要だとは思っています。小型のマイクロバスで通学できるのではない。（60代・男性）／通学バスを必ず出してほしい。夏休み、土日の部活も。（40代・女性）／車でバスを出して欲しい（無回答・女性）／通学バスがあれば良いと思っています。往復して安心して乗れる小さなバスが良いので。（70代・女性）／スクールバス制の導入は必須（寮がなくなり送迎の負担が増えるため）で不安はない。バスが出ないとなれば不安です。（60代・男性）／親が働いている以上、仕事に影響が。送迎バス（スクールバス）が必要。停止されるのは非常に残念です。通学は毎日のことなので、親が仕事をしながら送り迎えするとなると負担もかなり大きいと思いますので、有償であっても通学バスを希望します。（30代・女性）／中学生は勉強、部活にとても忙しい時なので、通学に負担がかかると思っても大変です。通学バスがあれば良いと思います。（50代・女性）／土曜日、日曜日の部活の時間が中学で統一され8:30～11:30になりました。なので部活の時にバスが出るとうれしいです。（40代・女性）／部活動に参加する場合はバスを出してほしい。片道だけでも出してほしい。（40代・女性）／家車の都合上、毎日子どもの通学のために送迎が必要となると送迎のためバス通学は考えて欲しい。（30代・男性）

【通学時の送迎による経済的な負担を減らしたい（23）】

通学バス代の免除を希望（40代・女性）／中学校への送迎につかうバス代が親の負担がどれほどになるのか？（60代・女性）／特に額田中にこだわる必要なし。学区の変更もあり。額田中に行くならバス費用は市が負担すべき。（60代・男性）／通学に利用するバスの費用（20代・女性）／中学校へ通いの金額は市が支払う（70代・女性）／仕事を抱えている親の送迎にかかる負担が大きくなるのでは。（60代・女性）／バスで送迎する費用は、額田中に送迎するより安い。（40代・男性）／通学バス料金は補助するべき（30代・女性）／時代が変わろうと、当初の約束どおり、親、家族に負担がかかる。送迎バスを毎日使わなければいけないので、今までよりもガソリン代は増える。（20代・男性）／バスが定額で金額であれば良いと思う。（20代・女性）／今までなかった親の時間、金銭的負担が増える。時間的には仕事の都合などで考えていかなければならなくなるだろう。（50代・男性）

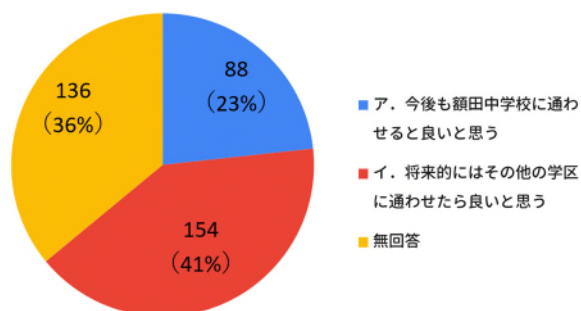
【近くの中学校に通うことができるとよい（18）】

近くの中学校に通うべき（20代・男性）／額田中学校区にこだわらず、近くの中学校への通学が出来るようになるというと思う。通学に送迎が必要であれば、それに市が最大の補助・支援があっても良いと思う。（40代・男性）／中伊西から毎日中学校に通学するのは時間がかなりすぎて部活などに集中できない。額中よりも近い学校に行きたいと思う（40代・女性）／通学区分を変更して近い所に行ければ良いが。（70代・男性）／額田中学校にこだわらなくても良い。（70代・男性）／旧額田地区にこだわらず一番近い中学へ（60代・男性）／岡崎市学区の両端。河合中、額田中学以外の近い中学への通学を希望。教育の積極的な導入（デジタル教育と親の送迎負担軽減）（30代・男性）／本来は自転車通学できる距離な距離であるのが良いが状況がどうなのでスクールバス等の通学に頼るしかないのでは。距離的、時間的に見てももっと近い中学校もあるので学区変更できれば良いと思う。（60代・男性）／スクールバスの通学は時間がかなりすぎる。大治の中学に通うことが可能なら便利だと思う。（80代～・女性）

額田中学校の寮がなくなることにより、通学の移動手段に対する不安が大きい。中でも、送迎バス（スクールバス）を求める声（53）、通学にかかる経済的な負担増に対する不安を訴える声（23）が多い。

質問2ー②：今後の将来的な中学校区のご意見をお聞きます【全体・地区別】

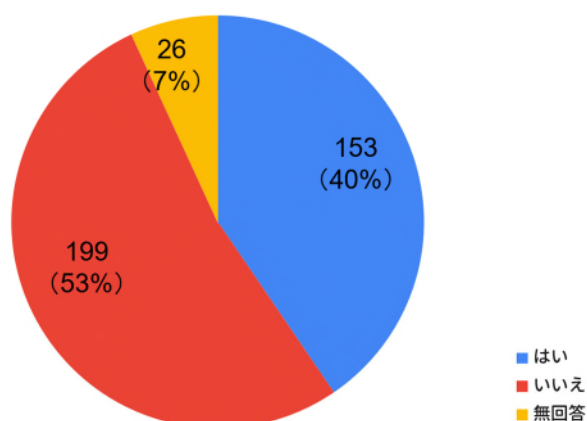
	全体	一色町	外山町	小久田町	中伊西町	中伊町	富尾町	保久町
ア. 今後も額田中学校に通わせると良いと思う	88	4	5	8	8	27	1	35
イ. 将来的にはその他の学区に通わせたら良いと思う	154	12	15	9	23	24	8	63
無回答	136	2	22	9	20	21	12	50



全体では「今後も額田中学校に通わせると良いと思う（88：23%）」「将来的にはその他の学区に通わせたら良いと思う（154：41%）」「無回答（136：36%）」と回答に大きな差はなかったが、世代別に分類してみると子育て世代（30代・40代）のみが、「将来的にその他の学区に通わせたら良いと思う（36：64%）」と大きな割合を占めており、中学校区に対する考え方では、世代別で偏りが生じていることがわかった。

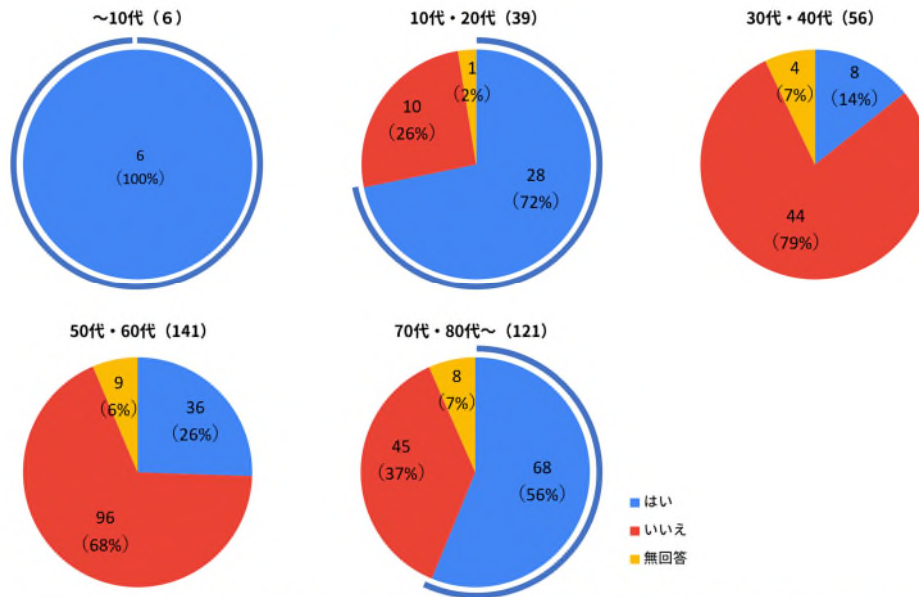
⑦過去にささゆりバスを使ったことがある

質問3ー①：過去にささゆりバスを使ったことがある。【全体】



☞全体で見ると、ささゆりバスの利用者は4割程度だが、世代別に見ると…

質問3ー①：過去にささゆりバスを使ったことがある【世代別】

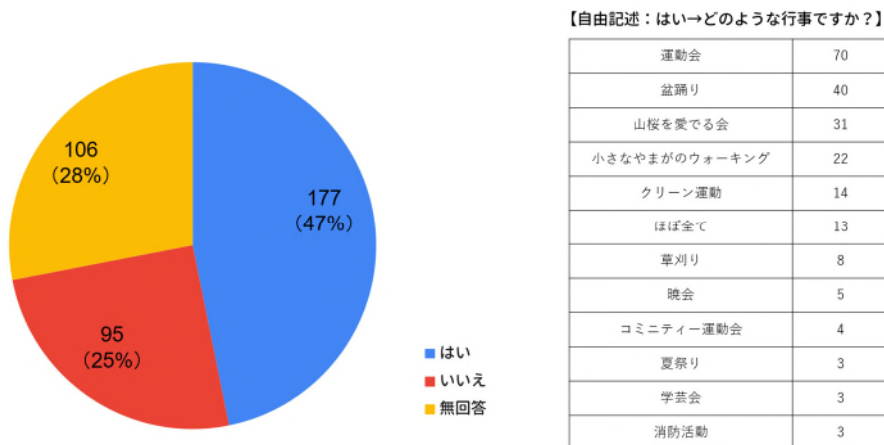


☞ ささゆりバスは「20代以下」と「70代以上」(いわゆる交通弱者)の移動手段となっていることがわかる

「はい」と回答された方が4割程度に留まっているが、世代別に見ると「～10代 (6 : 100%)」「10代・20代 (39 : 72%)」「70代・80代～ (68 : 56%)」といわゆる交通弱者世代では、ささゆりバスが主たる移動手段となっていることがわかる。

⑧あなたは学区行事に参加されていますか

質問4ー①：あなたは学区行事に参加されていますか？【全体】



【自由記述：はい→どのような行事ですか？】

運動会	70
盆踊り	40
山桜を愛でる会	31
小さなやまがのウォーキング	22
クリーン運動	14
ほぼ全て	13
草刈り	8
晩会	5
コミュニティ運動会	4
夏祭り	3
学芸会	3
消防活動	3

☞ 学区行事に参加されているのは半数弱

「はい」と回答された方が177 (47%) となっており、多くの方が学区行事に参加していることが分り、そこから下山の特徴の一つである住民間の協調性の高さを感じとることができる。

⑨この地域が魅力あり住んでいて楽しい地区にするためにどのような協力ができますか？【自由記述】

質問4ー②:この地域が魅力あり、住んでいて楽しい地区にするために、どのような協力ができますか？【自由記述】

「ゴミひろいなどは今後も参加できる限り参加したい。情報発信などで協力できればと思っている。(20代・女性)」
「仕事を通じて下山の魅力を発信し続け、年間を通じて人々がこの地に訪れる仕組みを作る。(30代・女性)」
「自然が多い事を生かせるような遊び場をつくる(20代・女性)」
「若い人たちも住みやすいように、例えば自然を生かした保育をするような場所があれば、それを目的として来る方もいるのではないか(50代・女性)」
「地区に田畑の荒れ地があるので町の方から希望者を募って田や畑を作ってほしい。一緒に作業をする。(70代・女性)」
「町に住んでいる人に、のどかな場所に住むのも良いことも伝えていきたい。(30代・男性)」
「下山地区の潜在能力はまだまだ活かしきれていないので、住民の協力で地区としての魅力としてアピールする。(60代・男性)」
「今はまだ発信していないが、地域に根差した食料品店になっていきたい。現在、醤油、味噌、洗濯石鹸など日用品は扱っています。(30代・男性)」
「他の地域から来て下山地区に住んでいることから、この地区に住むことを検討している人たちに自分の経験を伝えることができると思います。(40代・男性)」
「あるけあるけ(ウォーキング)や山桜の会のイベントに外から来る人を増やせるように紹介する(30代・女性)」
「積極的に協力したいという若手(20～30代)が多い。」

29

「どのような協力ができますか(自由記述)」という質問に対して、

- ・ ゴミひろいなどは今後も参加できる限り参加したい。情報発信などで協力できればと思っている。(20代・女性)
- ・ 仕事を通じて下山の魅力を発信し続け、年間を通じて人々がこの地に訪れる仕組みを作る。(30代・女性)
- ・ 自然が多い事を生かせるような遊び場をつくる(20代・女性)
- ・ 若い人たちも住みやすいように、例えば自然を生かした保育をするような場所があれば、それを目的として来る方もいるのではないか(50代・女性)
- ・ 地区に田畑の荒れ地があるので町の方から希望者を募って田や畑を作ってほしい。一緒に作業をする。(70代・女性)
- ・ 町に住んでいる人に、のどかな場所に住むのも良いことも伝えていきたい。(30代・男性)
- ・ 下山地区の潜在能力はまだまだ活かしきれていないので、住民の協力で地区としての魅力としてアピールする(60代・男性)

といった積極的な提案も多い。

(3) まとめ

①人口動態

- ・ 岡崎市 47 小学校区で最少人口(592人 ※2022年4月時点、岡崎市統計データより)
- ・ 人口推計では、2030年に17%減、40年に34%減、50年には55%減。
- ・ 学区の高齢化率:44.3%
- ・ 町別高齢化率:岡崎市全354町上位10町中3町が下山学区(富尾、外山、一色)。

②生活環境（教育機関、商業施設、病院等）

- ・ 下山小学校の児童数は 21 人。完全複式学級。2023 年度より特認校指定により学区外より 2 名の児童が通学する予定。
- ・ 児童数が最も多かった 1945 年（226 人）と比べると、1/10（22 人）まで減少。
- ・ 額田中学は 2023 年に寮の廃止が決定。中学校区の見直しに向けた動きあり。
- ・ 地域の尽力により、週 5 日コミュニティバスが運行（他の中山間地では週 1, 2 日程度）しているが、部活や補講等には対応しておらず、保護者の負担が少なくない。新たな交通手段を検討する必要性が指摘されている。

③生活環境 | 商業施設・病院

- ・ 地域内に日用品が買える店舗はない（A コープは 2019 年 3 月に閉店）。
 - JA あいち三河が運営する移動スーパー「ほたる号」が定期的に訪問。
- ・ 最寄りの病院は隣の学区の診療所。
- ・ 車が運転できるうちは良いが、運転できなくなると日常生活に支障をきたす。
- ・ 今後、地域で出来る移動支援の仕組みを検討する必要がある。

第3章 下山学区の地域将来ビジョン

3-1 背景と課題

(1) 概要

下山学区では、人口減少や高齢化、若者の流出が進み、農業や地域活動の担い手不足が深刻になっています。

また、2019年3月には学区内唯一の商店であったAコープが閉店、2023年度からは保育園一時休園するなど、集落機能の弱体化も大きな課題です。

そこで、今後学区住民が主体となって、行政や事業者、様々な機関、団体等と連携し、持続可能な地域づくりに向けて一丸となって取り組んでいくために、「地域の将来ビジョン」と、テーマごとに定めた具体的な取組の指針を定めます。

(2) 課題

①人口動態

下山学区の人口と世帯数は、592人、268世帯（※2022年4月1日時点）と岡崎市47小学校区で共に最も少ない。人口推計では、2030年に17%減、40年に34%現、50年には55%減という推計値が出ており、高齢化率は44.3%と極めて高く、このままでは地域の存続が危ぶまれる状況にある。

②生活環境（教育機関、商業施設、病院等）

下山小学校の児童数は21人で完全複式学級である。2023年度より特認校指定となり、2名の児童が越境通学する予定であるが、小学校閉校を避けるためには継続的に児童数を維持していく必要がある。

地域の尽力により、週5日コミュニティバスが運行（他の中山間地では週1、2日程度）しているが、部活や補講等には対応しておらず、保護者の負担が少なくない。

額田中学校は2024年3月に寮の廃止が決定しており、通学や送迎の負担が増えることが危惧されている。

③生活環境 | 商業施設・病院

Aコープの閉店により学区内に日用品が買える店舗がなくなったが、JA あいち三河が運営する移動スーパー「ほたる号」、新たにウエルシア薬局株式会社が開始するオンライン健康相談が可能な移動販売車の運行など、買い物支援のサービスが生活環境を支えている。

一方で、最寄りの病院は隣の学区の診療所であり、車の運転ができなくなると通院はじめ日常生活に支障をきたす状況にある。

④全住民アンケートより

令和3年8月に、下山学区在住の中学生以上を対象としたアンケート（378/453通 | 回答率83.4%）では、「下山が不便な点」として「買い物をするところが遠い（190）」、「地区の役員、学校の役員がすぐ回ってくる（141）」、「中学校が遠い（140）」という意見が多かった。それ以外の回答も含め整理すると、

- ①買い物や飲食できるお店がない
- ②地域のお役が多い
- ③教育施設・医療機関等が遠い

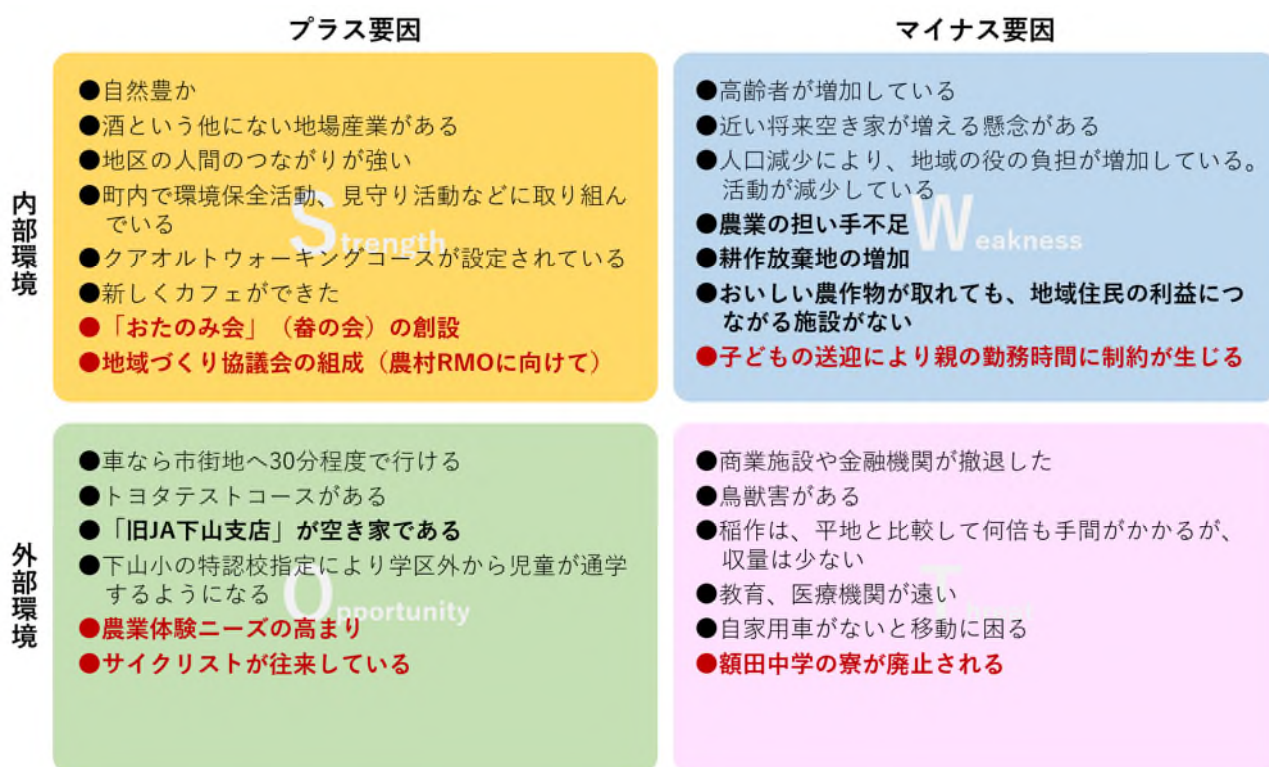
の3つが下山の主要な地域課題と言える。

「この地域にあったらいいと思うもの」としては、「使いやすいコミュニティバス（143）」「小学校・中学校の送迎バス（94）」「予約制デマンドバス（89）」と上位の3つが全て移動支援に関するものという結果となり、交通の問題に対する課題意識が強いことがわかった。

「この下山が好きで満足しているか」という問いに対して「大いにそう思う」が45通（11.9%）、「そう思う」が214通（56.6%）と、全体で7割弱の方が下山のことを好きで満足しているという結果が得られた。好きな理由としては「自然豊かで環境が良いから」という意見が多く、好きでない理由としては「交通手段がないから」「不便だから」等の理由が多くを占めた。

（3）下山学区の SWOT 分析

下山学区の地域特性や課題、現在の動向等を踏まえた SWOT 分析を以下に示す。



直近の動きは、内部環境のプラス要因として、

- ・ 地域住民の生活上の困りごとの解決法の検討と実施を図る「生活たのみ隊」の創設
- ・ 岡崎市下山学区地域づくり協議会の組成

外部環境のプラス要因として

- ・ 農業体験ニーズの高まり
- ・ サイクリストが往来している

が挙げられる。

また内部環境のマイナス要因として

- ・ 子どもの送迎により勤務時間に制約が生じる

外部環境のマイナス要因として

- ・ 額田中学の寮が廃止される

という動きがあった。

下山学区は、他の中山間地域と比べても地域活動が活発であると言えるが、担い手の多くはシニア層であり、従来の担い手の高齢化も進んでいる。一方で、ヒアリングや全住民アンケートから、地域づくりに積極的な若手の存在が確認され、ワークショップでは若手を中心に参加を呼び掛けた結果、若手の新たな地域活動への機運が高まっていることはプラスの要因である。

下山を好きな人の割合が高いことは下山学区の大きな資源であり、柴田酒造の存在や体験農園プログラムへの参加など、地域外からの注目度も上がってきており、地域一丸となって、地域外の関係人口との連携体制を構築しながら、地域が主体となって地域課題を解消しながらより良い地域づくりに向けて取り組むことが喫緊の課題である。

上記の要因を踏まえ、今後の地域づくりの取組を検討する。

3－2 基本方針

[キャッチ]

田畑と山に子どもの声がこだまする

世代や地域を超えて持ちつ持たれつ支えあう

小さくても輝くまち下山

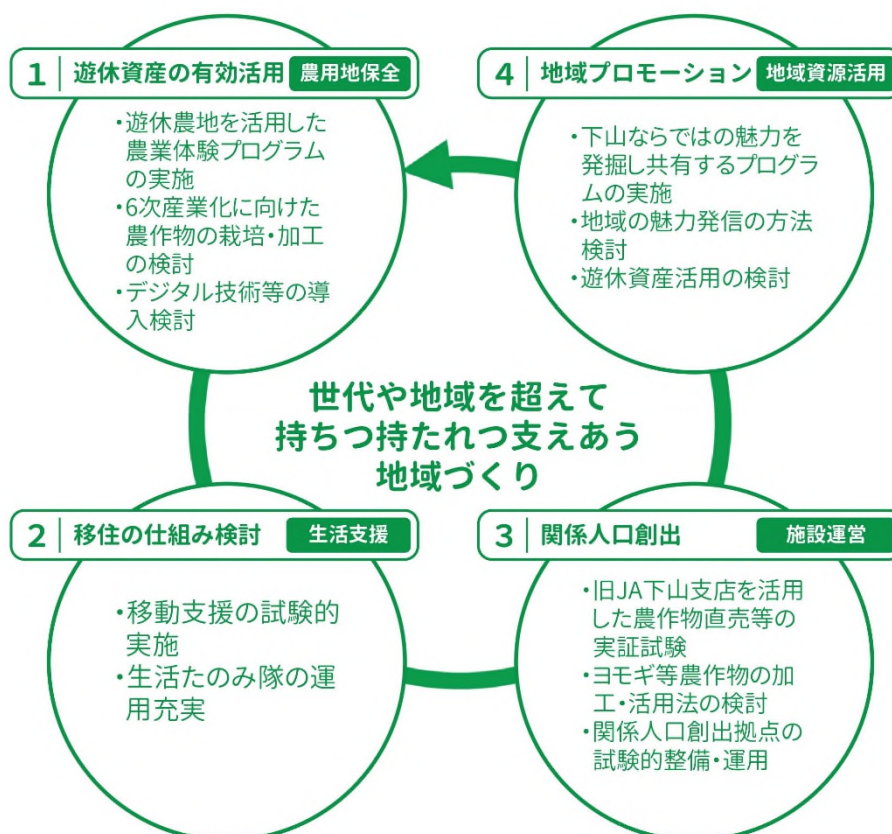
[概要文]

下山学区には、きれいな源流の水から育まれるお米やお酒、緑豊かな自然環境、そしてあたたかく優しい地域のつながりがあります。

そんな地域の特色を活かし、農業体験やおいしく安全な食の提供、山歩き・ウォーキングなど、地域内の人も地域外の人も楽しく集い交流できる機会を増やしていきます。

そうした交流を通じて、下山が好きな人たちが増え、下山に関わる人が増え、世代や地域の枠を超え、持ちつ持たれつ支えあう地域づくりを目指します。

いつまでも、田畑と山に子どもたちの声がこだまする下山でありますように。



3－3 今後の取組

(1) 農用地保全〔農用地保全〕

- ・ 遊休農地を活用した農業体験プログラムの実施

小学生ファミリーを主な対象として1年を通じて稲作体験プログラムを実施。休耕田や空き家などを農用地保全や地域づくりの担い手の受け皿として有効活用していきます。



(2) 移住支援の仕組み検討〔生活支援〕

- ・ 通学や通院、買い物を手助けする移動支援の試験的实施

地元有志による「生活たのみ隊」を中心に社会福祉協議会やダイハツ（軽ワゴン提供）等と連携し、移動支援の仕組みづくりを進めます。



(3) 関係人口創出〔施設運営〕

- ・ 旧 JA 下山支店を活用した関係人口創出拠点の試験的整備・運用

旧 JA 下山支店を、子どもや学生・高齢者の居場所および特産品の販売や飲食もできる休憩・案内所として改修し、地域内外の交流拠点として活用します。



（４）地域プロモーション〔地域資源活用〕

- ・ 下山ならではの魅力を発掘し共有するまち歩きプログラムの実施

地元の人を知る下山の魅力と、地域内外の人だから気づく下山の魅力を掘り起こし、共有するまち歩きを行い、下山の魅力を伝える情報発信の方法と体制づくりを進めます。



3－4 取組のステップ

	段階	取り組むこと	目指す状態
1 年目 2022 年度	体制と活動の骨格づくり	・ 地域将来ビジョンの策定 ・ 部会の組成 ・ 行動計画の検討（農業体験、生活支援、遊休資産活用など）	将来ビジョンと行動計画が定められ、下山の地域資源の活用や地域課題のための活動と体制の基盤ができている
2 年目 2023 年度	各種活動の試験的实施	・ 農業体験の試験的实施 ・ 移動支援の試験的实施 ・ 旧 JA 下山支店の改修と活用 ・ 地域資源の発掘と発信 ・ 農村 RMO 設立に向けた組織体制の検討を開始	各種活動の実証試験を通じて下山の関係人口が生まれ、核となる事業の成立要件が明確になってきている
3 年目 2024 年度	主要事業の改善 拡張	・ 実証試験の検証および改善を通じた関係人口の拡充 ・ 行動計画の横展開（企業等の協力・協働） ・ 農村 RMO 事業（直売所、体験農園等）の本格運用 ・ 農村 RMO 設立に向けた準備（設立する法人の種類、実施体制・事業計画の検討）	資源活用や課題解決のための核となる事業が立ち上がり、関係人口が増えている
4 年目 2025 年度 以降	農村 RMO の設立と主要事業実施体制の確立へ		

下山学区地域将来ビジョン

発行：岡崎市下山学区地域づくり協議会

（作成：NPO 法人 岡崎まち育てセンター・りた）
